



国文学研究資料館 2024

National Institute of Japanese Literature



『彩画職人部類』

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
National Institutes for the Humanities

Contents

はじめに	3
概要	4
共同研究	6
データ駆動による課題解決型人文学の創成	8
国書データベース	14
事業概要	16
公開データベース	23
教員一覧	24
若手研究者支援	26
大学院教育	27
参考データ	28
人間文化研究機構	30

はじめに

国文学研究資料館

館長 渡部 泰明

ようこそ、国文学研究資料館へ。

当館は1972年に創設され、今年で設立52年となります。半世紀の間、日本文学および関連領域の研究に寄与してきたことになります。国文学研究資料館が、準備期間を経て閲覧サービスを開始したのは、1977年の7月でした。個人的な記憶を掘り起こせば、その翌年大学の国文学科に進学した私は、先輩に促されるままに、当時戸越(東京都品川区)の地にあった当館を訪れ、手に入れるのに四苦八苦していた文献や資料を苦もなく閲覧することができ、しかも複写までしてもらえることに驚いたものでした。爾来四十余年、国文学研究資料館の提供する資料の範囲は飛躍的に拡大し、サービスの質も格段に向上しました。各種データベースの充実ぶりにも目を瞠るものがあります。



© えくてびあん

近時新型コロナウイルスが私たちの生活を脅かし、調査や資料収集に大きな制限が加わった状況下で、これら各種のデータベースがどれほど有効性を発揮したかは、よくご存じのことと思います。

こうしたデータベースの一つ「国書データベース」は、当館が2014年度より取り組んだ「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(歴史的典籍NW事業)が中心になって生み出したものです。歴史的典籍NW事業で、国内外の研究機関と連携しつつ行っている画像データの作成も、目標の30万点を達成しました。さらに、本2024年度より歴史的典籍NW事業の後継計画である「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業を開始しました。蓄積してきた膨大なデータを、どう活用していったらよいのか、その道筋を示していきたいと思っています。そのために、理系をも含めた異分野とも協力し合い、また国内・国外を問わぬ研究者どうしのネットワークを形成し共同研究をいっそう推進していく予定です。これらはすべて、大学共同利用機関に属する私たちのミッションです。もちろん市民との連携をはじめとした社会貢献も、重要な仕事です。

もとよりどのような情報であれ、使うのは人間であり、それを咀嚼し、自らの知性の糧とするのも私たちです。宝の持ち腐れでは意味はありません。人文学に何が出来るのか、今強く問われています。だからこそ、私たちの発言や行動が必要になっている、と思っています。情報の海に溺れないためにはどうしたらよいか、多様な価値観の中でどこを向いて進んだらよいか、そもそもそれを教えてくれるのが古典だからです。いまだ知られていない古い資料・文献を発掘し、誰でも読み解けるように提供したうえで現代に甦らせ、その価値を共有しようという公のものとしていく。そのようにして共感の形成への方途を示すことで、分断と抗争に脅かされ、かたや多様性の尊重が求められるこの現代社会に貢献したい。私どもに課せられた使命はますます重い、と自覚しております。

概要

国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来50年にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿革

- 1966年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター(仮称)」の設置を政府に勧告
- 1970年 9月 学術審議会が「国文学研究資料センター(仮称)」の緊急設置を文部大臣に報告
- 1971年 4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 1972年 5月 国文学研究資料館創設(管理部、文献資料部、研究情報部)
文部省史料館(1951年設置)が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 1977年 6月 開館式挙行
- 7月 閲覧サービスを開始
- 1979年 4月 整理閲覧部設置
- 1987年 4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 1992年 4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービスを開始
- 2002年11月 創立30周年記念式典挙行
- 2003年 4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 2004年 4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる
法人化に伴い、館内組織を改組
- 2008年 3月 立川市緑町の現在地に移転
- 2013年 4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 2014年 4月 大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」を開始
古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
- 2019年 2月 多摩学術文化プラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」設立
- 2020年11月 日本古典籍研究国際コンソーシアム設立
- 2022年 4月 古典籍データ駆動研究センター設置
- 2022年 5月 創立50周年記念式典挙行
- 2024年 4月 大規模学術フロンティア促進事業「データ駆動による課題解決型人文学の創成ーデータ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓ー」を開始
プロジェクト推進室及び基盤データセンターを設置し、情報事業センターを基幹事業センターに改組

施設について

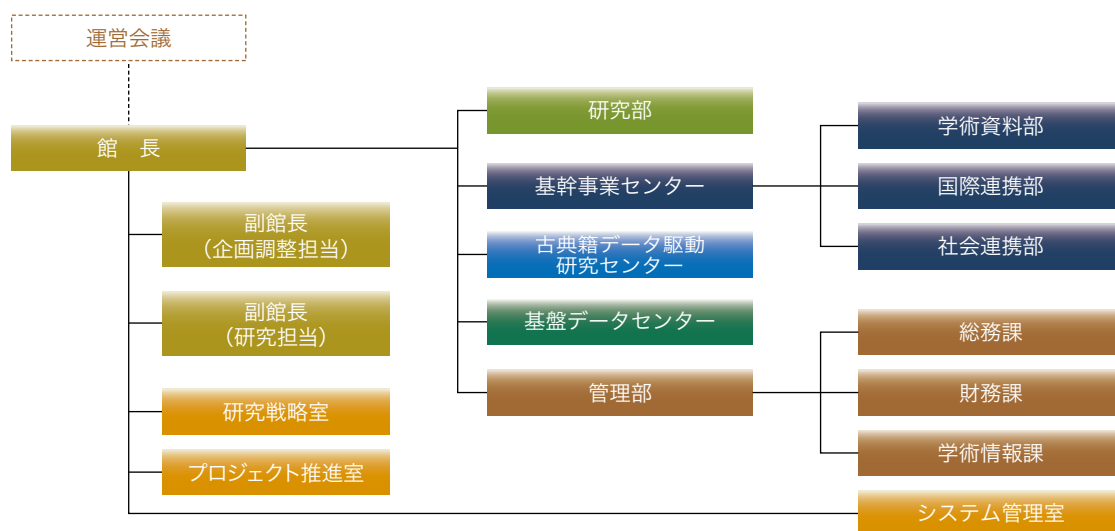
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計としています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書すべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



組織図



運営会議

館外委員

安藤 宏	放送大学客員教授
川平 敏文	九州大学人文科学研究院教授
久富木原 玲	愛知県立大学名誉教授
倉員 正江	日本大学生物資源科学部特任教授
佐藤 至子	東京大学大学院人文社会系研究科教授
鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科教授
田淵句美子	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
張 龍妹	北京外国語大学北京日本学研究中心教授
遠山 敦子	静岡県富士山世界遺産センター館長
ロバート ヒューイ	ハワイ大学マノア校名誉教授
八木 敏郎	多摩信用金庫会長
山地 一禎	情報・システム研究機構国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系教授
山本 聡美	早稲田大学文学学術院教授

館内委員

入口 敦志	副館長(企画調整担当)
大山 敬三	研究部特任教授
岡崎真紀子	研究部教授(研究主幹)
神作 研一	副館長(研究担当)
木越 俊介	研究部教授(研究主幹)
齋藤真麻理	研究部教授
西村慎太郎	研究部教授(研究主幹)
藤實久美子	研究部教授(研究主幹)
山本 和明	研究部教授(研究主幹)

役職員

館長	渡部 泰明
副館長(企画調整担当)	入口 敦志
副館長(研究担当)	神作 研一

研究部

研究主幹	岡崎真紀子
研究主幹	木越 俊介
研究主幹	西村慎太郎
研究主幹	藤實久美子
研究主幹	山本 和明

基幹事業センター

センター長(併任)	入口 敦志
学術資料部長(併任)	岡崎真紀子
国際連携部長(併任)	藤實久美子
社会連携部長(併任)	西村慎太郎

古典籍データ駆動研究センター

センター長(併任)	大山 敬三
-----------	-------

基盤データセンター

センター長(併任)	山本 和明
-----------	-------

システム管理室

室長(併任)	岡崎真紀子
--------	-------

総合研究大学院大学先端学術院

日本文学研究コース長	齋藤真麻理
------------	-------

管理部

管理部長	秋庭 祥亜
総務課長	笠原 政宏
財務課長	姫野 深雪
学術情報課長	片岡 真

共同研究

50余年にわたる調査収集事業と、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)等で集積してきた、日本文学とその関連領域の各種資料(古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など)を主たる研究資源として、多様な日本文学研究のいっそうの推進と発展のために、以下の共同研究を実施しています。

共同研究は大学共同利用機関の根幹をなす最も重要なものであり、公募要領の策定・審議採択・進捗管理を、共同研究委員会(外部委員7名および館内教員6名の都合13名によって構成)が担当しています。

法人第4期(2022～2027年度)には新たに、「特定研究」のもとに3種(「近代」「地域資料」「国際」)計7件の共同研究を立てるとともに、「課題」として国文研が所蔵する各種コレクションの基礎的研究を計画的に配置するなど、これまで以上の充実を図っています。

公募/非公募を問わず、いずれの共同研究においても、研究組織における若手研究者比率に留意し、共同研究を展開してゆく中で次世代の研究者を育成することにも配慮します。また、館外者が研究代表者を務める共同研究には必ず「館内担当者」を充て、共同研究がスムーズに進行するようきめ細かくサポートしています。

※公募時期は毎年秋、採択決定は毎年末です。

基幹研究

「基幹研究」は、日本文学とその関連領域の基礎基盤となる共同研究です。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています。

- **国文学研究資料館所蔵貴重書の基礎的研究** (2022年度～2027年度)
研究代表者：齋藤 真麻理(さいとう・まおり) 国文学研究資料館教授
中西 智子(なかにし・さとこ) 国文学研究資料館准教授
- **アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究** (2022年度～2027年度)
研究代表者：太田 尚宏(おおた・なおひろ) 国文学研究資料館准教授
- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究—廣瀬家の文事とネットワーク—** (2024年度～2027年度)
研究代表者：入口 敦志(いりぐち・あつし) 国文学研究資料館副館長

特定研究

「特定研究」は、個別特定の研究課題に取り組む共同研究です。

一般

国文研が集積してきた各種資料(古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など)を主たる研究資源として推進する共同研究です。公募。

- **和漢比較文学研究の形成・展開と依拠本文の変容との相関性についての基礎的研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：笹川 勲(ささがわ・いさお) 國學院大學非常勤講師
- **万葉集平仮名傍訓本の総合的研究** (2023年度～2025年度)
研究代表者：新沢 典子(しんざわ・のりこ) 鶴見大学教授
- **一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究** (2024年度～2026年度)
研究代表者：大山 和哉(おおやま・かずや) 同志社大学助教

課 題

国文研が所蔵する特定のコレクション(寄託資料を含む)に関して、個別研究を行う研究分担者を公募し、個人がその交流を通してさまざまな知見を獲得するとともに、関係文献の解題作成と展示公開を研究成果の一つとする共同研究です。

*研究代表者は初回の共同研究会において互選により決定。

- **国文学研究資料館松野陽一文庫の基礎的研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：館野 文昭(たての・ふみあき) 埼玉大学准教授
- **国文学研究資料館碧洋臼田甚五郎文庫の基礎的研究** (2023年度～2025年度)
研究代表者：久保木 秀夫(くぼき・ひでお) 日本大学教授
- **国文学研究資料館北野克旧蔵書画の基礎的研究** (2024年度～2026年度)
研究代表者：合山 林太郎(ごうやま・りんたろう) 慶應義塾大学教授

近 代

日本近代文学に関する共同研究です。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています。

- **近代文学における文例集・実作・文学読者層の関連の研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：多田 蔵人(ただ・くらひと) 国文学研究資料館准教授

地域資料

全国にわたる国文研の調査収集先の中から5か所を選定し、当該文庫に精通した研究代表者が、調査収集事業を担ってきた各地域の地域資料専門部会委員(旧国文学文献資料調査員)を中心に非公募で研究分担者を組織して行う共同研究です。研究資源の重要性を各地域でも共有していただくために、毎年度「○○文庫セミナー」を開催することを要件としています。

- **東北大学狩野文庫の研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：佐倉 由泰(さくら・よしやす) 東北大学教授
- **京都市歴史資料館寄託山本家所蔵資料など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：小林 一彦(こばやし・かずひこ) 京都産業大学教授
- **相愛大学「春曙文庫」に関する研究―書物と人** (2022年度～2024年度)
研究代表者：千葉 真也(ちば・しんや) 相愛大学教授
- **正宗文庫の研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：川崎 剛志(かわさき・つよし) 就実大学教授
- **中川文庫(祐徳稲荷神社)の総合的研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：村上 義明(むらかみ・よしあき) 熊本学園大学准教授

国 際

在外古典籍の調査研究とともに、それに基づいた国際共同研究を進めます。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています。*研究組織における在外研究者比率にも留意。

- **ハワイ大学ならびにホノルル美術館所蔵古典籍の調査研究** (2022年度～2024年度)
研究代表者：神作 研一(かんさく・けんいち) 国文学研究資料館副館長

データ駆動による課題解決型人文学の創成

ーデータ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓ー

文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業として、2014年度から2023年度までの10か年で実施した「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）の成果をさらに発展させる後継事業として、「データ駆動による課題解決型人文学の創成ーデータ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓ー」を、2024年度から2033年度までの10年計画で実施しています。

本事業では、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI利活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進など、国文学を中心とするデータインフラを構築し、さまざまな課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との共同による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓することを目指しています。

計画概要

4つの研究領域からデータ駆動による課題解決型人文学へ

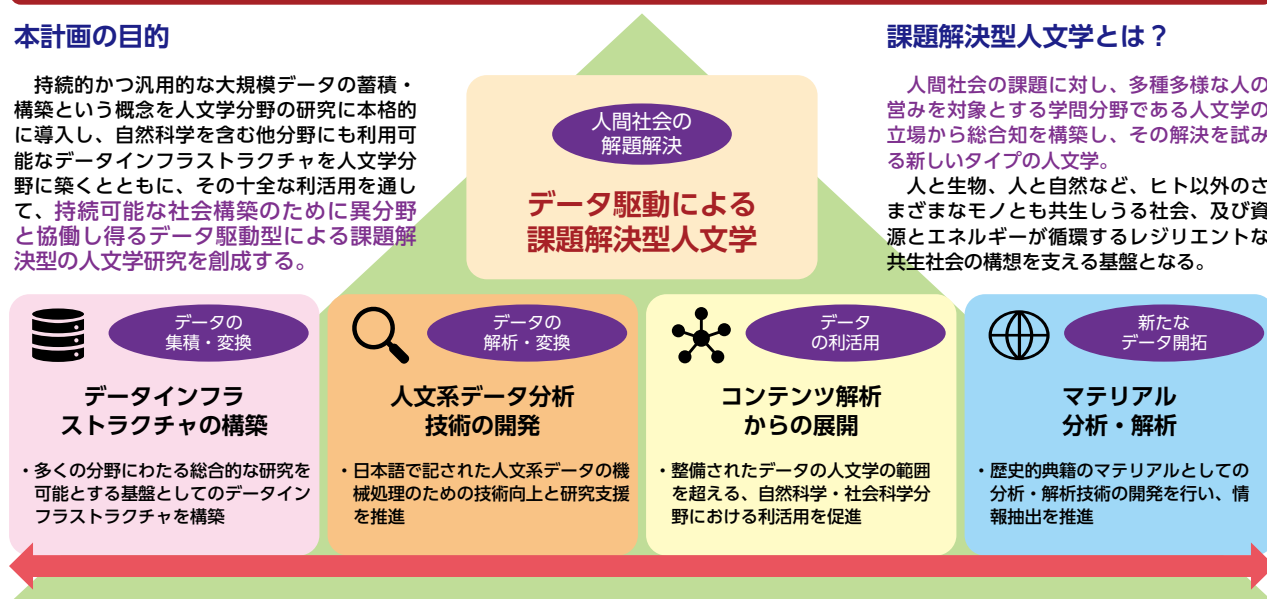
本計画の目的

持続的かつ汎用的な大規模データの蓄積・構築という概念を人文学分野の研究に本格的に導入し、自然科学を含む他分野にも利用可能なデータインフラストラクチャを人文学分野に築くとともに、その十全な利活用を通して、持続可能な社会構築のために異分野と協働し得るデータ駆動型による課題解決型の人文学研究を創成する。

課題解決型人文学とは？

人間社会の課題に対し、多種多様な人の営みを対象とする学問分野である人文学の立場から総合知を構築し、その解決を試みる新しいタイプの人文学。

人と生物、人と自然など、ヒト以外のさまざまなモノとも共生しうる社会、及び資源とエネルギーが循環するレジリエントな共生社会の構想を支える基盤となる。



大規模学術フロンティア促進事業とは？

文部科学省が推進する、最先端の技術や知識を結集して人類未到の研究課題に挑み世界の学術研究を先導する画期的な成果を挙げる大型プロジェクトです。

広範な研究分野コミュニティの意向を踏まえて策定された大型プロジェクト推進に関する基本構想「ロードマップ」等に基づき推進しています。

日本語の歴史的典籍によるデータ駆動の意義

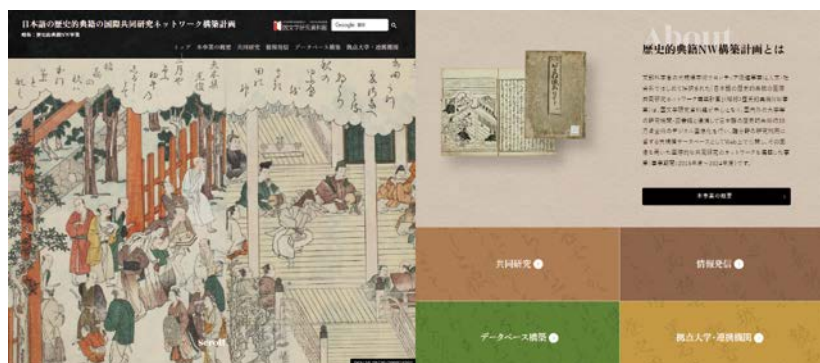
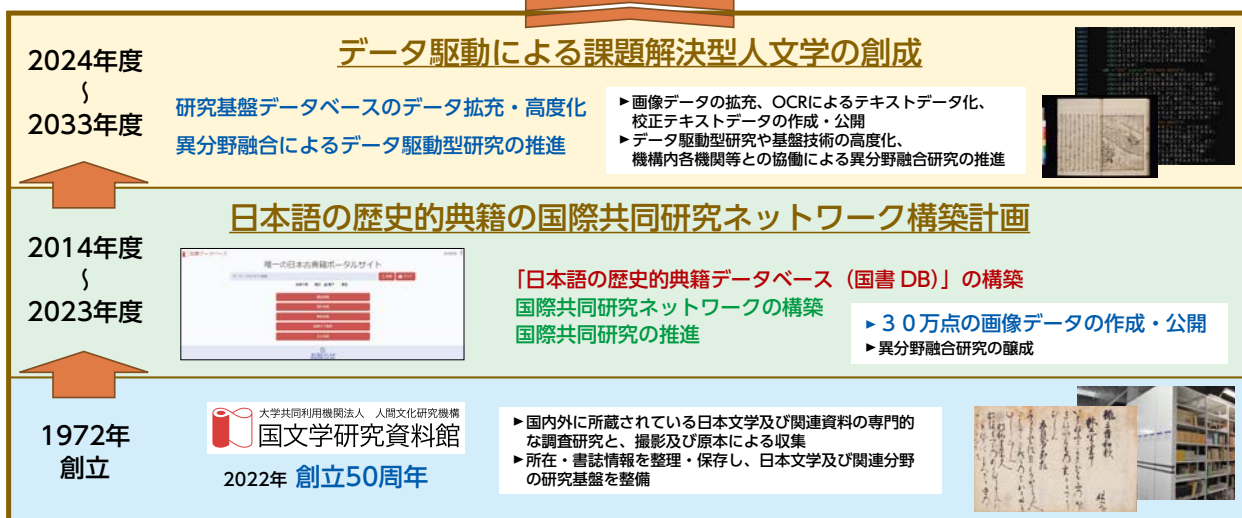
日本に現存する最古の歴史書である『古事記』の成立は、今からさかのぼること1300年。1000年以上の連続性をもって、単一の国に書冊が残存するということは、世界的に見ても稀な事象といえます。書物に記されている歴史的データには、気候変動や災害を含む地球環境史の記憶から、多文化共生への知恵、心の問題への対処のあり方、危機に直面した社会の再生記録など、人間社会の形成に関わるさまざまな記録が含まれています。

しかし、和紙という媒体特性のため図書館や研究機関の中に保管され、各分野の専門研究者以外の目に触れる機会は少なく、そこに記録された情報の包括的な利用や分析は困難でした。

そこで、これまで目に触れる機会の少なかった日本の書物に蓄積されている膨大な情報をデータ化し、異分野の研究者はもちろん、国内外の誰もが必要な情報を速やかに取り出すことができ、利用できる環境の構築を目指して進められてきたのが歴史的典籍NW事業です。歴史的典籍NW事業によって、30万点に及ぶ日本語の歴史的典籍の全冊画像を、Web環境さえあればオープンデータとして利用できる環境を整備しました。

本計画では、30万点の全冊画像データの構築を基盤に、さらにデータ集積の範囲を明治時代にまで拡張。国立国会図書館で公開されている近代書籍データと連結することで、1000年に及ぶ通時的なデータにし、機械可読型に整備して自然科学・社会科学分野といった他分野の研究者への利活用を進めていきます。そして、他分野の研究者と人文研究者との共同研究成果についてもデータとして蓄積し、研究成果を循環させる仕組みの構築にも取り組んでいきます。

多様な価値観の中でどこを向いて進んだらよいのか、それを教えてくれるのが古典
千年にわたる日本の記憶と経験を世界に開く
 さらには、誰でも読み解けるようなデータの提供と、その価値を共有を目指す



「歴史的典籍NW事業」の成果についてはアーカイブWEBサイトで確認できます。

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>



本事業の計画概要

本事業の計画概要は以下のとおりです。

研究基盤データベースのデータ拡充・高度化

画像データの集積の範囲を近代初頭(明治時代初頭)にまで拡張するとともに、機械可読可能な大規模テキストデータを形成します。

・画像データの拡充

歴史的典籍NW事業を通して、30万点の日本語の歴史的典籍の全冊画像を作成し、国書データベースにおいて、web上で誰でも、いつでも、無料で利用可能なオープンデータとして提供しています。本事業においては、さらに15万点の全冊画像を作成して合計45万点の画像の集積を行います。

・テキストデータの作成

国書データベースで公開している30万点の歴史的典籍の画像データを元に、OCRにより、機械可読な形のテキストデータを作成します。これにより、オンラインでの検索・表示システムの提供や機械学習モデルの作成などに利用できるようになります。また、TEIガイドラインによる最小限のマークアップを施したテキストの作成や、一部テキストに関しては研究者による校正や既存の翻刻資料を通じて、より信頼度の高いテキストを提供します。

異分野融合によるデータ駆動型研究の推進

情報学、自然科学分野などとの協働によるデータ駆動型研究や基盤技術の高度化を以下の4つの研究計画により推進しています。

- ・データインフラストラクチャの構築
- ・人文系データ分析技術の開発
- ・コンテンツ解析
- ・マテリアル分析・解析

また、多様な人文学分野の拠点である人間文化研究機構内の各機関との協働により、機構のスケールメリットを活かし、大規模データを活用したさまざまな課題意識に基づく国内外研究者との異分野融合研究を実施しています。



当館が主導機関となり、国立歴史民俗博物館・国立国語研究所や機構外の大学等研究機関とも連携して実施している広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」

異分野融合研究

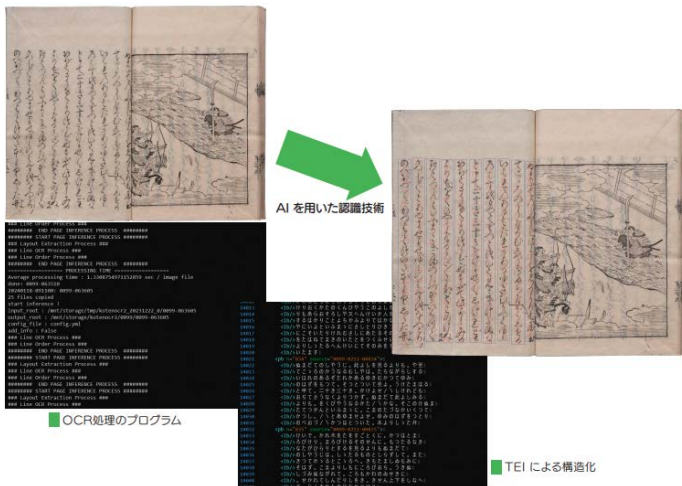
本事業においては、人文学の範囲を超える異分野とのさまざまな共同研究を行っています。

データインフラストラクチャの構築

本計画の基盤となるデータ駆動システムのハード面・ソフト面にわたる開発と運用計画の調整を行い、実際の運用を行います。

人文系データ分析技術の開発

AI技術の活用による研究資料の抽出とその多分野への適応、テキスト分析・解析技術及び画像等の非テキストによる検索技術の開発、データ蓄積の国際標準化への対応などにより、人文学系データをデータ駆動型に統合する方法と分析手法の開発を行います。



古典籍画像の機械可読型データへの整備



「近世江戸口語」「近世上方口語」「近世文語」のトークナイザーを実装したテキストアナリティクス



TEIに準拠したテキスト構造化の例

TEI (Text Encoding Initiative) とは？

人文学資料を適切にデジタル化するための標準策定を目的とした国際的共同プロジェクト。TEIコンソーシアムにより運営。

策定された標準はTEIガイドラインとして公開されている。



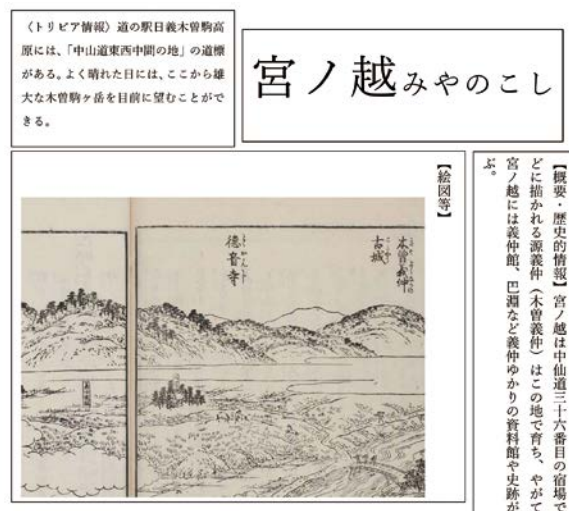
AIを用いた認識技術（人文学オープンデータ共同研究センター（CODH）<http://codh.rois.ac.jp/> 提供）

コンテンツ解析からの展開

従来、人文科学分野で活用されてきたエビデンスデータを自然科学・社会科学にも活用できるデータに改変し、現代社会の直面する課題を解決する共同研究を行います。



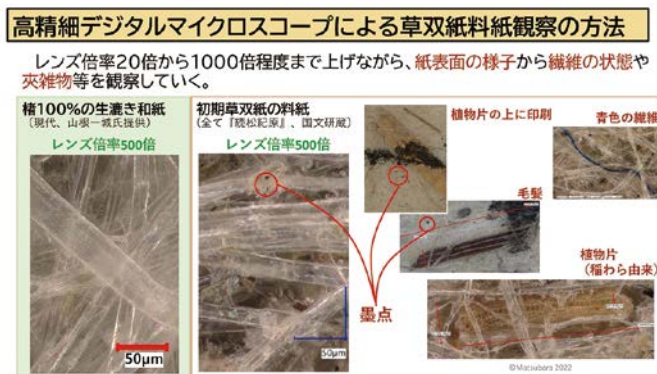
江戸時代に現在の東京都八王子市中心部に落下した隕石を古文書とともに解明を目指す国立極地研究所との共同研究



古典的知識及びそれに付随する地域の歴史や文化について楽しみながら学ぶ教材を開発する信州大学等との共同研究

マテリアル分析・解析

1000年の歴史を有する日本の書物には、記されたテキストの伝える情報とともに物質として伝えられた情報も蓄積されています。従来ほとんど行われてこなかったマテリアルとしての書物からの情報抽出及び分析・解析技術の確立を目指します。



マテリアル分析研究に使用する高精細デジタルマイクロスコープと、研究成果の一例

2023年度の主なイベント実績

- 2023年9月20日～22日に、ホスト機関として、日本デジタル・ヒューマニティーズ学会(JADH)の年次国際大会JADH2023をオンライン開催。また、同国際大会の関連イベントとして、9月20日にワークショップ「研究者とライブラリアンとの対話：データ駆動型人文学の推進に向けたラウンドテーブル」、及び9月21日に国際シンポジウム"Exploring Possibilities for Data-Driven Research in East Asian Studies"をそれぞれ開催
- 2023年12月17日に、マテリアル分析・解析に関する国際シンポジウム「草双紙研究の近未来—分離融合研究の成果 第二回—」を、実践女子大学文芸資料研究所と共催(後援：レーザーテック株式会社)



JADH2023ポスター



中高生向けSDGs体験イベントポスター

- 2024年1月13日に、マテリアル分析・解析に関する取り組みとして、中高生向けSDGs体験イベント「ホンモノの江戸時代の書物を使った紙漉き体験で江戸時代の循環型社会を学ぼう」を、実践女子学園中学校高等学校、実践女子大学文芸資料研究所と共催



GLECとの共催セミナーポスター

- 2024年3月14日に、コンテンツ解析からの展開に関する公開セミナー「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」を、茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)と共催



人文学のためのデータ構造化セミナーの様子

- 学術研究のDX化への対応と新たな研究手法を習得した人材の育成を目指し、人文学の若手研究者を主たる対象として幅広い研究者へ向けたセミナー「人文学のためのデータ構造化セミナー」を、2024年1月26日、1月30日、3月8日の計3回開催

国書データベース

「国書データベース」は、国内外の機関や個人が所蔵する、江戸時代以前の日本の書籍(古典籍)の書誌情報と全冊デジタル画像を無料で公開しています。国文学研究資料館がこれまで公開してきた『古典籍総合目録データベース』と『新日本古典籍総合データベース』を統合・発展させた古典籍データベースです。

 国書データベース

English

唯一の日本古典籍ポータルサイト

キーワードを入れて検索

検索 クリア

検索対象 ☐ 書誌 ☒ 著作 ☐ 著者

書誌検索

著作検索

著者検索

画像タグ検索

全文検索


お知らせ

国書データベースの活用事例に関する情報提供をぜひお願いします
[情報提供フォームはこちら](#)

国書データベースの特徴

- 全冊画像はデジタルアーカイブの規格であるIIIF (International Image Interoperability Framework) に対応しています。他のデジタルアーカイブで公開されているIIIF対応画像の連携表示が可能です。また、全冊画像に対してDOI (Digital Object Identifier) を付与しており、アクセスの継続性確保に努めています。
- 著作(作品)と著者による典拠コントロールを採用しています。これにより、個々の資料を表す書誌・所蔵レコードを著作典拠に紐づけて、さまざまな形で書写・出版されてきた作品を一覧したり、著者ごとの作品をまとめて探したりすることができます。これら典拠データは『国書総目録』(岩波書店)での項目を継承・発展させたものとなり、著作・著者に関する情報だけでなく、『国書総目録』に掲載されていた古典籍の所在情報や復刻・複製資料の情報も参照することができます。
- 国書データベースの典拠情報(著作、著者)は、国立国会図書館サーチの「タイトル標目」「著者標目」として利用されており、識別子として米国議会図書館のStandard Identifier Source Codesに登録されています。また、国立情報学研究所が運用するNACSIS-CATの「統一書名典拠」としても利用することができます。また、国立国会図書館サーチ、CiNii Research、ジャパンナレッジなどでも利用されています。

[illegible]

●国書データベースの普及と利用促進に向けた取り組みを積極的に推進しています。

1. チラシ・パンフレットの作成

国書データベースの概要や機能などを分かりやすくまとめたチラシ・パンフレットを作成しています。



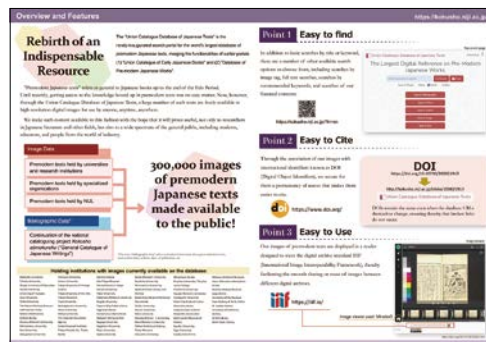
チラシ表 日本語版



チラシ表 英語版



パンフレット 日本語版 (一部)



パンフレット 英語版 (一部)

2. 各種シンポジウム等へ職員が参加し、概要や特徴等について解説を行っています。

参加シンポジウム等：

- ・第70回 国立大学図書館協会総会
- ・第33回日本資料専門家欧州協会年次大会
- ・JADH2023
- ・図書館総合展
- ・第9回日本語の歴史的典籍国際研究集会
- ・(寄稿) カレントアウェアネス-E No460 CA-E2612 - 日本古典籍を身近にする「国書データベース」
<https://current.ndl.go.jp/e2612>

3. 検索技術の紹介

国書データベースにおける異体字検索の実装についての技術紹介を、GitHubリポジトリ及びYouTube動画として公開しています。

- ・国文学研究資料館GitHubリポジトリ「国書データベースの異体字対応事例紹介」
<https://github.com/kokubunken/kokusho-itaiji-search>

- ・国文学研究資料館YouTubeチャンネル「国文研 Tech Talk Vol1」
<https://www.youtube.com/watch?v=sNwBKeyfBGk>

事業概要

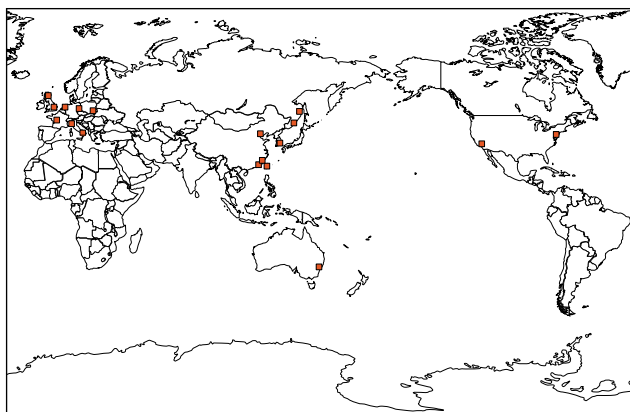
事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらをさまざまな方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査収集

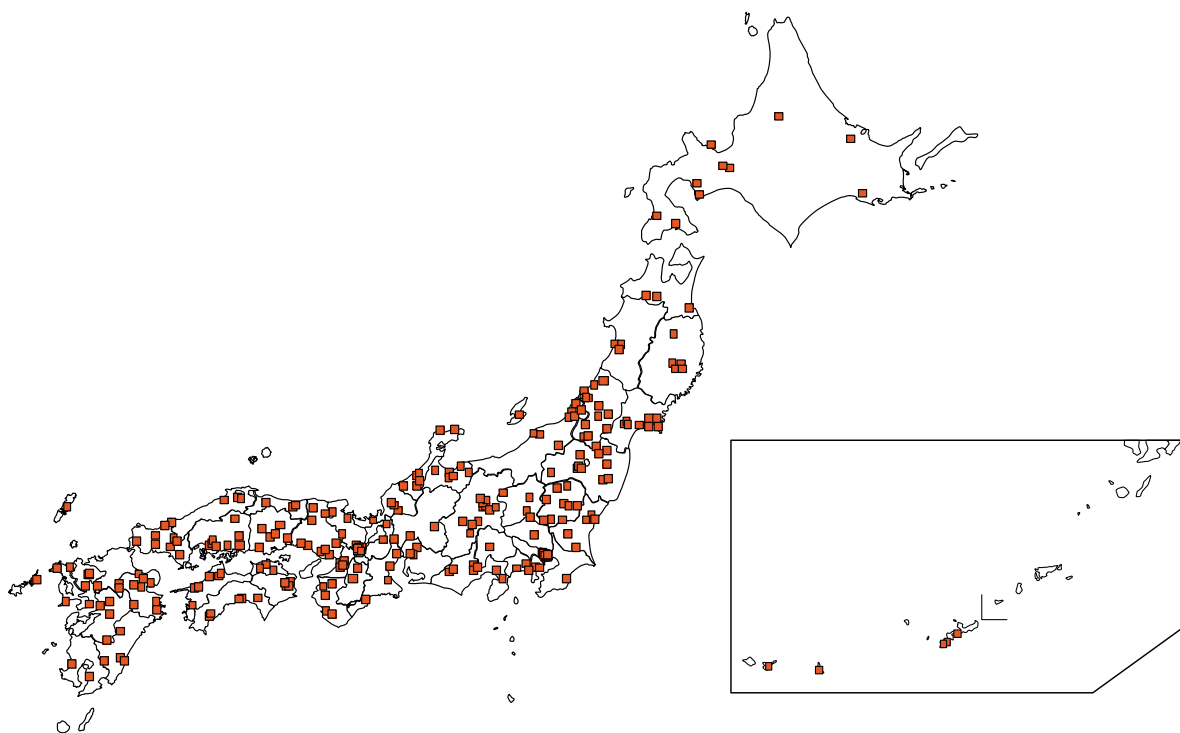
全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料(写本・版本等)の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料をデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,037箇所	425,288点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,104箇所	441,655点
収集	国内	399箇所	227,678点
	海外	13箇所	1,518点
	計	412箇所	229,196点



■ 2023年度調査箇所一覧

関東地区
宮内庁書陵部
国立国語研究所
最明寺
中部地区
浜松市立賀茂真淵記念館
近畿地区
春日大社
瑞光寺
中国・四国地区
鳥取県立博物館
手銭美術館
正宗文庫
光市文化センター
宇和島伊達文化保存会
大洲市立図書館
高知県立高知城歴史博物館
九州・沖縄地区
諏訪神社(諏訪文庫)
大分県立先哲史料館
近代
笠岡市教育委員会

■ 2023年度収集箇所一覧

関東地区
宮内庁書陵部
法政大学(鴻山文庫)
中部地区
富山市立図書館(山田孝雄文庫)
浜松市立賀茂真淵記念館
近畿地区
京都女子大学図書館(蘆庵文庫)
京都市歴史資料館
京都観世会館
瑞光寺
中国・四国地区
手銭美術館
正宗文庫
総本山善通寺
安田女子大学図書館(稲賀文庫)
宇和島伊達文化保存会
大洲市立図書館
高知県立高知城歴史博物館

九州・沖縄地区
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
諏訪神社(諏訪文庫)
肥前島原松平文庫
松浦史料博物館
廣瀬資料館
近代
東京大学明治新聞雑誌文庫
武者小路実篤記念館
東京経済大学
福岡市文学館
かごしま近代文学館
アーカイブズ
江川文庫
真田宝物館

※所蔵者名敬称略

2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

利用案内

利用時間	開館時間	平日	9:30～18:00
		土曜	9:30～17:00
	書庫資料 閲覧受付	平日	9:30～17:00
		土曜	9:30～16:00
	複写受付		9:30～16:00
休 館 日		<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝日・振替休日 ・年末年始(12月27日から1月5日) ・蔵書点検期間(2月) ・第4水曜日 ・夏季一斉休業日 ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館 Web ページで確認してください。	
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書(写本・版本)、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物 ※史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要なため、土曜日は閲覧不可。	
	複 写	電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)・ポジフィルム(ただし史料は除く)	
	撮 影	史料等、電子複写できない資料	
	貸 出	紙焼き写真本の一夜貸しサービス(一部を除く)	
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出	
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答	
	相 互 協 力	図書館間の相互協力(ILL)による文献複写、資料貸出	
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926 学術資料係
		相互利用(ILL)	050-5533-2926 //
		歴史資料について	050-5533-2930 //
		資料の掲載について	050-5533-2930 //
	F A X	042-526-8607	
	E-mail	etsuran@nijl.ac.jp	

所蔵資料

資 料 種 別			点 数 等	冊 数 等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,097 点	38,192 リール
		歴史	202 件	6,308 リール
	紙焼写真本	日本文学	—	68,935 冊
		歴史	—	11,196 冊
図 書	和古書		20,352 点	65,804 冊
	活字本・影印本等		118,555 件	205,000 冊
	逐次刊行物		9,578 誌	—
	マイクロフィッシュ		16,667 点	57,358 枚
史 料			511 件	約520,000 点
寄 託		日本文学	13 件	9,540 冊
		歴史	17 件	6,847 点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

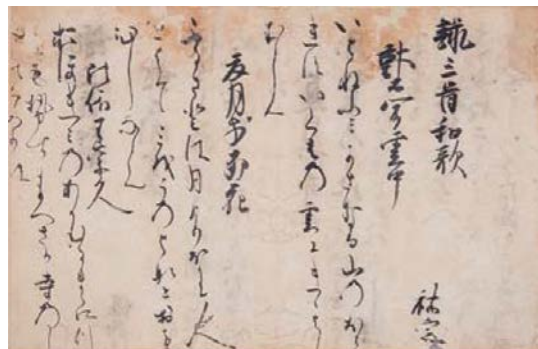
春日懷紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか222点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懷風弄月文庫)、田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安德川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物及び文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか27件

【寄託資料】

金子元臣旧蔵書6点、坂田穂好氏古筆切コレクション156点、増田コレクション6,690枚50箱ほか12件



春日懷紙(当館所蔵)



書庫

歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。

3 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

また複数の機関に限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完できる場として、日本古典籍研究に特化した「日本古典籍研究国際コンソーシアム(Global Consortium for Japanese Textual Scholarship)」を、2020年11月1日付けで国内外の参加機関と共に任意団体として設立しました。事務局は当館が担当。参加機関数は、2024年3月末現在で83機関(国内41機関、国外42機関)です。<https://kotenseki.org/>

学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学教育・語学・国際文化・文学・心理学部(イタリア共和国)
- 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- バチカン図書館(バチカン市国)
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科(アメリカ合衆国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- 大英図書館理事会(イギリス)
- スミソニアン協会(フリーア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリー)(アメリカ合衆国)
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(Inter-University Center for Japanese Language Studies)
- 檀国大学校日本研究所(大韓民国)
- カンザス大学(アメリカ合衆国)
- 北米日本研究資料調整協議会(北米)

文献資料ワークショップ

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)と共催で、次世代研究者を対象に、毎年2～3回、原則対面で開催いたします。日本古典籍を資源とする研究展開の支援を主たる目的とし、古典籍の取り扱い方の概説、一次資料の調査・利用方法の説明、国文研のデータベースやその他の資源の活用方法等について、実践的なガイダンスと有益な情報が共有される場を設けます。

4 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、さまざまなイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

2024年度展示予定

通常展示「和書のさまざま」 2024年4月18日(木)～8月9日(金)

企画展示「松野文庫の贈りもの」 2024年9月5日(木)～10月22日(火)

企画展示「枕草子と春曙文庫－田中重太郎旧蔵資料を中心に－」

2024年10月28日(月)～12月16日(月)



展示室

企画展示「源氏物語の新世界」(会場：たましん美術館) 2025年1月11日(土)～3月16日(日)

通常展示「書物で見る 日本古典文学史」 2025年1月23日(木)～4月18日(金)

特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、
特設コーナーを設け、当館所蔵の作品を展示いたします。

当館 Web サイト

<https://www.nijl.ac.jp/koten/webtenji/>



電子展示室

講演会等

(1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、当館において7月22日(月)～8月9日(金)、8月26日(月)～9月13日(金)の計6週間、短期コースは長野県立歴史館において11月11日(月)～11月16日(土)に開催を予定しています。



2023年度 アーカイブズ・カレッジ短期コース

(2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2024年度は7月2日(火)～5日(金)の4日間の開催を予定しています。



2023年度 日本古典籍講習会

多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体で構成するプラットフォームとして、多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。

【お問い合わせ】 国文学研究資料館 ぷらっとこくぶんけん担当 E-mail: platform@nijl.ac.jp

ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ

当館では2017年10月より、「ないじえる芸術共創ラボ アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」を実施しています。当事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍に、アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に触れていただき、研究者との創作ワークショップを通して、新たな文化芸術的価値を共創しようというものです。



ないじえる芸術共創ラボ WEB サイト

<https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/>



ないじえるアートトーク 枕草子を書き終えようとする清少納言——筆も使ひ果てて、これを書きはてばや——

公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館ではさまざまなデータベースを作成しています。
以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館
(<https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database>) で公開しています。

●図書・雑誌所蔵目録(OPAC)

当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌(逐次刊行物)の目録。

●国文学・アーカイブズ学論文データベース

1888年(明治21)から現在に至る国文学関係論文と、アーカイブズ学に関する国内研究文献を集約して提供。

国文学関係論文は、国文学研究資料館で所蔵している日本国内で発表された雑誌紀要単行本(論文集)等に収められた、日本文学・日本語学・国語教育の研究論文に関する情報を掲載。

アーカイブズ学論文は、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会文書館学文献目録編集委員会との共同作業による成果を含む。

●国書データベース

国内外の多くの機関等及び国文学研究資料館が所蔵する古典籍(江戸時代以前の書籍)等資料の著作・著者・書誌情報と、その一部の高精細画像を一度に検索・利用できるデータベース。

●収蔵歴史アーカイブズデータベース

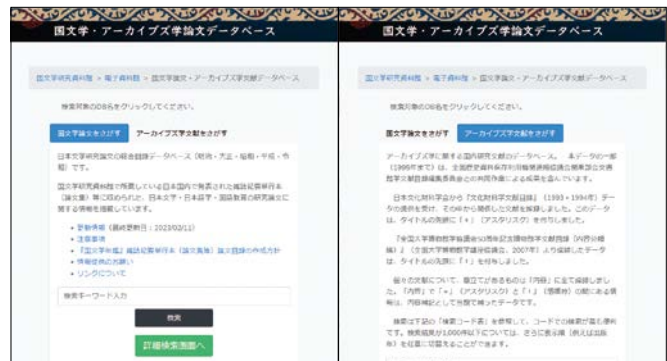
文部省史料館(1951年開館)とそれを継承した国立史料館、国文学研究資料館によって収集・保管されてきた近世・近現代の古文書や記録類、モノ資料からなるアーカイブズ。

●在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ

日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語(一部日本語も有)で提供。

※1 国書データベースについては、14頁及び15頁をご覧ください。

※2 2022年度まで公開していたデータベースの一部は、研究情報として学術情報リポジトリから公開しています。 <https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>



国文学・アーカイブズ学論文データベース



国書データベース



収蔵歴史アーカイブズ

教員一覧 (2024年4月1日現在)

館長

氏名	研究内容
渡部 泰明 WATANABE Yasuaki	和歌史の研究

研究部

氏名	職名	研究内容
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	教授 副館長 (企画調整担当)	近世文学研究
神作 研一 KANSAKU Ken'ichi	教授 副館長 (研究担当)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko	教授 (研究主幹)	中古・中世文学、和歌文学の研究
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	教授 (研究主幹)	日本近世文学、特に小説史の研究
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	教授 (研究主幹)	福島県原発事故被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko	教授 (研究主幹)	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究、書籍史料論の構築
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	教授 (研究主幹)	19世紀日本文学研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授 *日本文学研究コース長 (総研大)	中世文学の研究
渡辺 浩一 WATANABE Koichi	教授	日本近世都市史、アーカイブズ学
大山 敬三 OYAMA Keizo	特任教授	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko	准教授	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
北村 啓子 KITAMURA Keiko	准教授	人文学分野における情報利用技術の研究
栗原 悠 KURIHARA Yutaka	准教授	日本近代文学における幕末・明治維新期の表象
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
多田 蔵人 TADA Kurahito	准教授	日本近代文学における「引用」の研究
中西 智子 NAKANISHI Satoko	准教授	平安時代文学、物語文学
松田 訓典 MATSUDA Kuninori	准教授	人文学におけるコンピューター利用に関する研究
山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka	准教授	日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文
押海 圭一 OSHIUMI Keiichi	特任准教授	研究評価、特に人文系研究評価、政策研究
松原 哲子 MATSUBARA Noriko	特任准教授	18世紀の草双紙 (赤本・黒本青本) を中心とする日本文学の研究

氏 名			職 名	研 究 内 容
守 岡	知 彦	MORIOKA Tomohiko	特任准教授	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
江 戸	英 雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
川 上	一	KAWAKAMI Hajime	助教 (テニユアトラック)	日本中世文学、特に室町期和歌文学
ノット	ジェフリー	KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究
竹 内	綾 乃	TAKEUCHI Ayano	特任助教	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究
松 永	瑠 成	MATSUNAGA Ryusei	特任助教	近世・近代日本における出版文化、および貸本文化に関する研究

■ 古典籍データ駆動研究センター

氏 名			職 名	研 究 内 容
大 山	敬 三	OYAMA Keizo	センター長 (併任)	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
木 越	俊 介	KIGOSHI Shunsuke	副センター長 (併任)	日本近世文学、特に小説史の研究
菊 池	信 彦	KIKUCHI Nobuhiko	副センター長 (併任)	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
西村	慎太郎	NISHIMURA Shintaro	教授 (併任)	福島県原発事故被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
山 本	和 明	YAMAMOTO Kazuaki	教授 (併任)	19世紀日本文学研究
松 田	訓 典	MATSUDA Kuninori	准教授 (併任)	人文学におけるコンピューター利用に関する研究
松 原	哲 子	MATSUBARA Noriko	特任准教授 (併任)	18世紀の草双紙 (赤本・黒本青本) を中心とする日本文学の研究
守 岡	知 彦	MORIOKA Tomohiko	特任准教授 (併任)	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
竹 内	綾 乃	TAKEUCHI Ayano	特任助教 (併任)	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究

■ 基盤データセンター

氏 名			職 名	研 究 内 容
山 本	和 明	YAMAMOTO Kazuaki	センター長 (併任)	19世紀日本文学研究
神 作	研 一	KANSAKU Ken'ichi	副センター長 (併任)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
岡 崎	真紀子	OKAZAKI Makiko	教授 (併任)	中古・中世文学、和歌文学の研究
菊 池	信 彦	KIKUCHI Nobuhiko	准教授 (併任)	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
多 田	蔵 人	TADA Kurahito	准教授 (併任)	日本近代文学における「引用」の研究
松 田	訓 典	MATSUDA Kuninori	准教授 (併任)	人文学におけるコンピューター利用に関する研究
守 岡	知 彦	MORIOKA Tomohiko	特任准教授 (併任)	漢字情報学、文字オントロジーに基づく文字処理、一般キャラクター論
竹 内	綾 乃	TAKEUCHI Ayano	特任助教 (併任)	平安文学のテキストを対象としたデータ駆動型の研究

若手研究者支援

■特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公立大学大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及び関連領域の分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、必要な研究指導を行っています。受入人員は10名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

年度	2019	2020	2021	2022	2023
受入人数	6人	6人	4人	6人	4人



■若手研究者向けイベント

■国際日本文学研究集会（2023年度実績）

2023年5月13日(土)～5月14日(日)

概要：対面もしくはオンラインによる研究発表（口頭発表）

インフォメーション・セッション（ポスター発表）

第1～第4セッション14名（うち若手研究者8名）

ポスター発表2名（うち若手研究者1名）

参加者：98名（2日間延べ）

■文献資料ワークショップ（2023年度実績）

11月15日、2月21日の計2回、国文学研究資料館及び一部、オンライン上で開催。

参加者数：延べ113名、主な参加者居住国：日本、アメリカ、中国、イタリア

■日本古典籍講習会（2023年度実績）

若手研究者を対象とし、日本古典籍書誌学の初歩的知識の修得を目的に研修を行っています。なお、2023年度の研修プログラムは第21回日本古典籍講習会の第1日と第2日をもって実施しました。

■日本古典文学学術賞(国文学研究資料館賛助会主催)

「日本古典文学学術賞」は、財団法人日本古典文学会が主催していた「日本古典文学会賞」を継承し、若手日本古典文学研究者の奨励と援助を目的として、国文学研究資料館賛助会に設置されました。

受賞対象者は、対象となる業績の公表時に40歳未満である研究者です(3名以内)。

第16回「日本古典文学学術賞」につきましては、2022年1月～12月までの業績(著書)を対象とし、選考委員会における選考の結果、1名の受賞者が決定しました。



大学院教育

■ 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻 日本文学研究コース

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とし、日本文学の新たな発展を担う人材を養成します。具体的には、文化資源のうち文献を主とした一次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

本コースは、博士後期課程のみから成り、コースに所属する学生は東京都立川市に所在する人間文化研究機構国文学研究資料館において学修・研究活動を行います。

● 在籍学生数 2024年4月1日現在

入学定員	1年次	2年次	3年次	合計
2名程度	1	2	4	7

● 直近5年間の年度別学位取得者数 ※論文博士を含む

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
0	2	3	2	0

● 修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育 等

■ 日本文学研究コースの特徴

● 複数指導体制

18名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

● 充実した教育研究環境

国文学研究資料館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、院生用の図書室、談話室などコースの学生のための施設が充実しています。

● 経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書の購入と院生図書室への配架も行っています。



*組織改組に伴い、2023年4月から「文化科学研究科日本文学研究専攻」から「先端学術院日本文学研究コース」に変わりました。



原本と画像を活用した講義

参考データ

職員・予算・施設(2024年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m ²)
館長	1	収入	1,356,272	建物面積 専有面積	13,002
教授	9	運営費交付金	1,352,913	上記の内	
准教授	9	自己収入	3,359	閲覧室	1,584
助教	3	支出	1,356,272	書庫・収蔵庫	2,416
特任教授	1	教育研究経費	815,740	展示室	355
特任准教授	3	一般管理費	540,532		
特任助教	1				
事務系職員	44				
合計	71				

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金)(2024年度)

研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	研究期間
基盤研究(A)	一般	入口 敦志	日本文学及びその関連分野のデータ駆動のためのテキスト形成の総合研究	2022～2026
基盤研究(B)	一般	齋藤 真麻理	画題と画論および粉本の生成受容圏から見た中近世文芸の表象と展開に関する総合的研究	2023～2026
基盤研究(B)	一般	神作 研一	近世絵入り本の基礎的研究	2024～2027
基盤研究(B)	一般	渡辺 浩一	近世・近代における〈連関〉の環境史研究の創出	2024～2028
基盤研究(B)	一般	太田 尚宏	近世における森林資源コントロールに関する基礎的研究 ―尾張藩を中心に―	2024～2028
基盤研究(C)	一般	木越 俊介	地誌・奇談にみる19世紀型〈知〉の再編と享受	2020～2024
基盤研究(C)	一般	小林 健二	江戸時代前・中期における能狂言を題材とした絵画資料の調査と研究	2020～2024
基盤研究(C)	一般	山下 則子	鶴屋南北作歌舞伎における近世中期学芸の研究―異分野融合と社会還元を視野に―	2020～2024
基盤研究(C)	一般	ダヴァン ディエ	初期大燈派関連書籍の研究	2021～2024
基盤研究(C)	一般	岡崎 真紀子	平安後期から室町期に至る歌題の生成と展開についての総合的研究	2022～2025
基盤研究(C)	一般	多田 蔵人	日本近代文学と歴史的文体概念の相関に関する通史的研究	2023～2025
基盤研究(C)	一般	中西 智子	藤原道長家における『源氏物語』の長篇化に関する研究	2023～2026
基盤研究(C)	一般	押海 圭一	研究評価システムが人文系研究者に与える影響に関する研究	2023～2026
基盤研究(C)	一般	山本 和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する発展的研究	2024～2027
基盤研究(C)	一般	松原 哲子	マテリアル分析で解明する18・19世紀の後印を含めた地本の展開と草双紙史再定義	2024～2027
挑戦的研究(開拓)		渡辺 浩一	社会転換期における地域アーカイブズ全国調査の検証と新たな方法の開拓	2020～2024
若手研究		ノット ジェフリー	戦国期古典学史の基礎的研究―連歌師の源氏学を中心に―	2021～2025
若手研究		栗原 悠	1920-30年代の文学テキストにおける幕末-明治維新表象の研究	2022～2026
若手研究		山本 嘉孝	伊藤東涯による漢文制作の総合的研究―江戸後期・明治期日本漢文の原型の解明	2022～2026
若手研究		松永 瑠成	近代日本における貸本屋の所在と蔵書に関する研究	2023～2026
若手研究		竹内 綾乃	データ分析から解き明かす平安文学における話法の研究―自由間接話法を中心に―	2024～2026
研究活動スタート支援		川上 一	足利義政の和歌・連歌事績に関する基礎的研究	2023～2024
研究活動スタート支援		河田 翔子	本説を以って説く中世古今集注に見える説話的要素の基礎研究	2023～2024
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		神作 研一	UCB三井文庫の調査研究とその利活用による国際的研究拠点の構築	2022～2025
研究成果公開促進費(データベース)		山本 和明	国書データベース	2020～2024
研究成果公開促進費(データベース)		西村 慎太郎	収蔵歴史アーカイブズデータベース	2024
研究成果公開促進費(学術図書)		松永 瑠成	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	2024

(2024年4月1日現在)

主要出版物一覧

当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文研ニュース(年2回刊) ※WEB版のみ
- ふみ



国文研ニュース



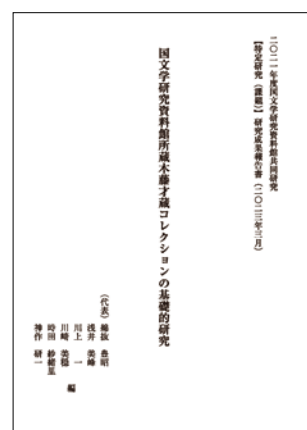
ふみ

研究成果

- 国文学研究資料館紀要 ※WEB版のみ
 - 文学研究篇
 - アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書



紀要 文学研究篇



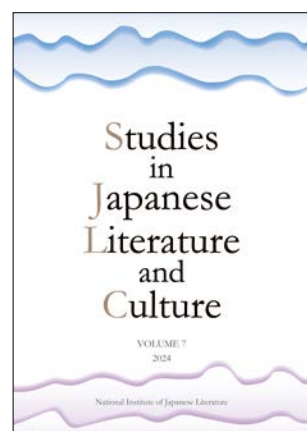
共同研究(特定研究(課題))
研究成果報告
国文学研究資料館所蔵
木藤才蔵コレクションの
基礎的研究

事業関係

- 調査研究報告 ※WEB版のみ
- 史料目録 ※WEB版のみ
- 展示図録
- Studies in Japanese Literature and Culture ※WEB版のみ



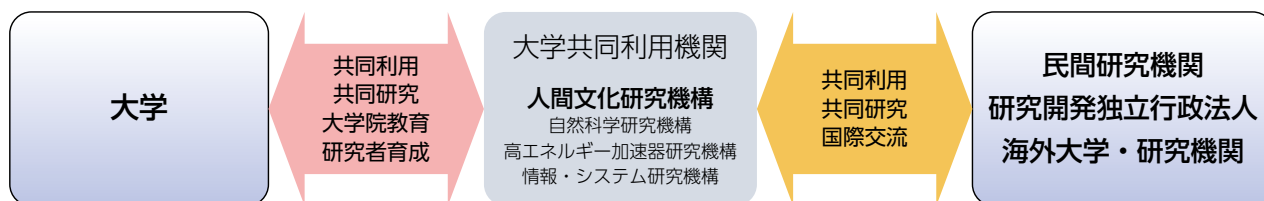
特別展示
「創立50周年記念展示
こくぶんけん〈推し〉の一冊」
図録



Studies in Japanese
Literature and Culture

大学共同利用機関とは

各々の研究分野における我が国の中核的研究拠点(COE)として、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報等を国内外の大学や研究機関等の研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

人間文化研究機構(人文機構/NIHU)は、人間文化研究を推進する6つの大学共同利用機関を支え、さらなる研究の発展を図る法人として、2004年に設置されました。現在の構成機関は、以下の6機関です。

- ・国立歴史民俗博物館(歴博)
- ・国文学研究資料館(国文研)
- ・国立国語研究所(国語研)
- ・国際日本文化研究センター(日文研)
- ・総合地球環境学研究所(地球研)
- ・国立民族学博物館(民博)

6つの機関は、それぞれの研究分野における国際的な中核研究拠点として、国内外の大学等研究機関、研究者と連携して、基盤的研究及び学際的研究を推進しています。人文機構は、これら6つの機関同士、あるいは機構内の機関と機構外の大学等とをつなぎ、研究資源の構築、実証的研究、理論的研究を進めるとともに、自然科学との連携を含む新しい研究領域の創成を目指して、人間文化に関する総合的な学術研究とその発信に取り組んでいます。



人文機構のミッションとビジョン

【ミッション】

人文機構は、人間文化研究に関する唯一の大学共同利用機関法人として、人間とその文化を総合的に探究し、その探求を通じて、真の豊かさを問い、自然と人間の調和を図り、人類の存続と共生に貢献することをミッションとしています。

【ビジョン】

ミッションの実現に向けて、法人第4期には、人間文化の多様性や社会の動態を踏まえて、現代社会のさまざまな課題を追究し、その解決を志向するとともに、人と自然が調和し、科学技術と人間性が共存する未来社会の実現のための指針となるべき新しい価値観や人文知を提示することを目指しています。その達成のために、社会に開かれた新たな知の形成を目指して、2022年4月に人間文化研究創発センターを設置しました。センターでは、国内外のさまざまな人々との共創による開かれた人間文化研究という理念のもと、デジタル技術を用いた研究基盤を構築するとともに、その基盤を活用した共同研究を推進し、さらに社会のさまざまな人々との交流と協働の場としての「知のフォーラム」の形成、国際的なネットワーク形成に取り組んでいます。

開かれた人間文化研究をめざす「人間文化研究創発センター」

人間文化研究創発センターでは、人文機構のミッションとビジョンに基づき、「基幹研究プロジェクト」と「共創先導プロジェクト」を推進しています。

■ 基幹研究プロジェクト

機構の根幹をなす人間文化に関する基盤的・学際的研究として、3類型11の研究プロジェクトを実施し、学術ネットワークの拡大や新分野創出等によって、大学共同利用機関としての使命の実現を図っています。

【機関拠点型】 人文機構の6機関が主体となつて実施するプロジェクト	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究(歴博)
	データ駆動による課題解決型人文学の創成(国文研)
	開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究(国語研)
	「国際日本研究」コンソーシアムのグローバルな新展開―「国際日本研究」の先導と開拓―(日文研)
	自然・文化複合による現代文明の再構築と地球環境問題の解決へ向けた実践(地球研)
	フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文科学研究の推進(民博)
【広領域連携型】 機構内の複数の機関が連携して実施するプロジェクト	横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して(主導機関：歴博・民博)
	人新世に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究(主導機関：地球研)
	異分野融合による総合書物学の拡張的研究(主導機関：国文研)
【ネットワーク型】 他の大学や研究機関と連携して実施するプロジェクト	グローバル地域研究推進事業(主導機関：民博)
	歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業(主導機関：歴博)

■ 共創先導プロジェクト

各機関及び国内外の大学等研究機関が連携して、研究資源や研究成果の共有化及び地域との共創・協働等を通して社会に貢献するプロジェクトです。これらを通して、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」という3つの研究展開を図ります。

3つの 研究展開	共創促進研究	共創促進事業
	機構内外の多様な組織や人々との共創による共同研究を推進し、3つの研究展開を促進します。	3つの研究展開を加速化させるための事業を実施し、機構内機関及び機構外大学等研究機関の研究の高度化・創発を図ります。
社会共創	コミュニケーション共生科学の創成	知の循環促進事業
デジタル化	学術知デジタルライブラリの構築	デジタル・ヒューマニティーズ(DH) 促進事業
国際共創	日本関連在外資料調査研究	国際連携促進事業

【TOPICS】 デジタル・ヒューマニティーズ(DH) 促進事業

人文機構では、2022年度から6年間の重要課題としてデジタル・ヒューマニティーズ(DH)の推進を掲げています。2023年度には「DH推進室」を設置し、さまざまな取組みを推進しています。



(上) 若手研究者のポスター発表・交流を行った「DH若手の会」
(左) 教育動画「DH講座」を機構YouTubeチャンネルで公開



『彩画職人部類』
蓮沙庵龜求撰
玉樹軒橘岷江画

交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分 ※無料駐車場あり



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

<https://www.nijl.ac.jp/>

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan
TEL: +81-50-5533-2900

